

自然保護部野生動物の森 ⑬ サル(ニホンザル) 2014.4

- ① 日本特産種で北海道、対馬にはいない。顔に毛がなく赤くて口がとがっている。尻も赤く手足は黒く寄り目でほほに食べ物を貯える袋がある。毛は短く灰色で先が黒っぽい。四、五才で一人前になり、群れをなす。食べ物は主として果実、冬は木の皮を食べる。
- ② 日本猿で有名なのは、①九州、別府の高崎山のサル ②同じく宮崎県の海水でイモを洗うサル ③信州は野沢温泉の湯に入るサル ④青森、下北半島の北限のサルなどだろうか。
- ③ この地方にも猿は結構居るようだが、弓張山系では今迄一度も会ったことはない。現在は知らないが、以前豊川市の平尾カントリーの何番ホールだったか、こちらがゴルフボールを打とうと身がまえると必ず、一連隊がフェアウェイを横切っていったものだ。豊川市、新城市、奥三河などでは猿に依る農作物の被害のことはよく聞いたもので、例えば「しいたけ」などはカサを捨ててジクの方だけ食るとか、我々と好みが違うようだ。
- ④ 最近読んだ本で興味深かったことがある。以下はそれを要約したものである。

人類発祥の地がアフリカ東部であることはわかっていることだが、コンゴ川の北に棲む人類の兄弟はゴリラとチンパンジーであり、南に棲むのはボノボである。ホモサピエンスも元々森に居たのだが、気候変動かなにかで草原地帯(サバンナ)に向い直立歩行になっていったらしい。チンパンジーは55kgほどにもなり、同程度の人間の場合、脂肪は14kg位だが、絶えず体を動かしている彼らは1.3~1.9kg程度らしい。元々雑食性ではあるが、狩りの腕は抜群で、狙った獲物の8割は仕留める。「ライオンだと10回から20回のうちやっと1回」というきわめて優秀な生き物らしい。ボノボはチンパンジーより小型、細身で性格も平和的、穏和な生き物である。もちろんゴリラというのも肉食主義者でおとなしいのは御存知の通りである。但しゴリラの数は危機的な程少ないが、ボノボは約一万頭、チンパンジーは15万頭程もいるらしい。(RH)

